

釧路湿原川レンジャー News

2017 Vol.4

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成29年10月7日(土)に31名が参加して、「第3回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。今回は、釧路市、標茶町、弟子屈町、鶴居村を廻り「釧路川を巡る自然地理」を行いました。

釧路川

釧路川は、阿寒摩周国立公園内の屈斜路湖から流れ出し、弟子屈原野を流れ、標茶町において釧路原野に入ります。その後、オソベツ川、久著呂川等を合わせ、岩保木から新釧路川となり、釧路市で太平洋に注いでいます。急流の多い日本の川にあって、上下流の標高差が120m程度しかない穏やかな川です。

古くから内陸と釧路を結ぶ交通路として栄え、明治に入ってから、人や硫黄、木材、食料などが往来する道としての役割を果たしてきました。しかし、昭和6年の釧網線の開通により、釧路川の交通路としての役割は終わりました。現在では、かつての汽船に代わって、レジャー活動として大勢の人がカヌーでの川下りを楽しんでいます。

中下流部に広がる釧路湿原は、ヨシ・スゲなどの低層湿原を中心とした日本最大の湿原です。特別天然記念物に指定されたタンチョウをはじめとする貴重な動植物の生息地、渡り鳥の飛来地として有名で、ラムサール条約による国際的保護が図られるとともに、昭和62年には国立公園にも指定されました。

流域には、釧路湿原の他にも屈斜路湖のほか、シラルトロ・塘路・達古武という湖沼もあり、豊かな自然に恵まれています。

「釧路川を巡る自然地理学」



大西英一センター長

第3回学習会は、釧路湿原から釧路川上流部までの行程約200kmを巡りながら、釧路川流域の自然環境・歴史について学びました。各所の解説は、長年釧路の自然環境活動に貢献され、釧路湿原川レンジャーにも登録されている釧路専門学校環境・教育研究センターの大西英一センター長が務められました。各見学箇所でも、地形・地質や自然環境、郷土史について、地元の方にもあまり知られていない逸話を交えわかり易く解説していただきました。

場 所	
①	細岡カヌーステーション
②	塘路湖エコミュージアムセンター
③	屈斜路湖(釧路川への落とし口)
④	屈斜路湖(砂湯)
⑤	川湯エコミュージアムセンター
⑥	硫黄山
⑦	摩周湖(第1展望台)
⑧	北斗展望地

参加された川レンジャーは釧路川流域の名所・大自然を目で楽しみつつ、興味深い話に耳を傾け、約8時間にわたる第3回学習会「釧路川を巡る自然地理」を終了しました。

①細岡カヌーステーション



上流左岸に釧路湿原東部の達古武湖より流込む川の合流部があります(写真右)。達古武湖は、陸に取残された標高3mの海跡湖であり、この付近一帯の釧路川の流れはゆったりとしています。

②塘路湖エコミュージアムセンター



釧路川流域の環境を模型で説明

塘路湖は、達古武湖と同様に釧路湿原の海跡湖です。他に海跡湖としてシラルトロ湖がありますが、この湖はいずれ低層湿原に変わると言われています。塘路湖はこの3湖のうち最も大きい湖です。これらの海跡湖は釧路湿原東部に位置しています。約6千年前、釧路湿原には海が入り込んでいましたが、海退にあわせ東部が沈降(年約1cm)しつつ、3湖が陸に取り残され淡水の湖となりました。

③屈斜路湖(釧路川への落とし口)



橋の下より釧路川へ流出

屈斜路湖は日本最大のカルデラ湖です。カルデラとはスペイン語で大きな鍋を意味します。現在の屈斜路湖は、元々あった巨大な円形状の湖が、その後の造山活動(中島、アトサヌプリ火山群、摩周火山)により形をせばめられ約1万

年前に誕生しました。この湖は釧路川の水源地であり、源流がこの場所となっています。

④屈斜路湖(砂湯)



記念撮影

屈斜路湖の周辺は温泉地が多く、砂湯で湖岸の砂を掘ると、温泉が湧き出てきます。

⑤川湯エコミュージアムセンター



屈斜路湖の説明を聞く様子

※説明はセンター職員

川湯には硫黄山から流れ出る温泉が湧いています。通常、温泉水は深い所を流れますが、川湯では深さ約20m付近の地下水の上を流れる非常に稀な現象をみせています。泉質は草津温泉（群馬県）と同質の強酸性の硫黄泉です（pH2～3）。

⑥硫黄山



硫黄山（アトサヌプリ）は約3千年前にできたと言われる標高512mの新しい活火山です。山体は硫黄分が豊富でかつては麓に硫黄鉱山がありました。白い煙は高温の水蒸気で強い酸性を示します。麓には硫黄山の硫黄

分が流れ出て堆積した硫黄荒原が広がっています。この硫黄荒高原には酸性に強い植物（イソツツジ、ハイマツ、ガンコウランなど）だけが分布しています。

（解説は、紙面の関係上一部を省略して掲載させていただきました。）

肌寒い中、大西センター長、参加された皆様、ありがとうございました。

観察活動の報告

報告していただいた観察活動について紹介します。今回はゴミの不法投棄、希少な動植物の報告などがありました。今後も釧路湿原川レンジャーNewsで紹介していきますので、皆様からの報告をお待ちしています。

観察活動で報告された内容

報告日	報告内容
H29. 9. 26	その他（交通事故によるエゾジカ・タヌキの死骸）
H29. 10. 5	ゴミの不法投棄 動植物（エゾジカ）
H29. 10. 10	動植物（ミサゴ、アメリカカウズラシギなど）



ミサゴ（北海道）絶滅危惧種



柳原氏提供 (新釧路川)

ヤツメウナギ (カワヤツメ)



柳原氏提供

※日本への飛来は稀

(大楽毛海岸)

アメリカカウズラシギ

Eボートによる川下り見学会

平成29年9月8日(金)「Eボートによる川下り見学会」に釧路湿原川レンジャーが参加しました。

川下り見学の行程は、釧路川の標茶町五十石橋下流から茅沼カヌーポイントに至る約6km(約1時間半)です。ここは、釧路湿原自然再生事業の旧川復元箇所として、平成23年に直線化された河川から旧川へ流れを切替えた場所です。五十石橋下流から湿原の中をゆっくり下りつつ、エゾジカの足跡が多数残る旧川切替部の砂堆を過ぎ周囲を眺めると、旧川復元区間の川岸周辺に湿原植生が回復していることが確認できました。



旧川切替部で記念撮影



旧川復元区間

